2025年度　事業計画書

2025年4月1日から

2026年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

目　　次

◆　2025 年度事業方針‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　1

事業計画

１　総　会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　4

２　役員会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　4

３　調査及び研究　（定款第５条１号）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　4

４　研究発表会及び学術講演会等の開催　（定款第５条２号）‥‥‥‥‥‥‥　6

５　学術誌及び学術図書の刊行　（定款第５条３号）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　7

６　人材の育成　（定款第５条４号）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　9

７　規格の作成及び普及　（定款第５条５号）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　13

８　内外の関連機関、団体等との提携及び交流　（定款第５条６号）‥‥‥‥　14

９　研究の奨励及び研究業績の表彰　（定款第５条７号）‥‥‥‥‥‥‥‥‥　15

１０　その他この法人の目的を達成するために必要な事業　（定款第５条８号）・　16

参考：事業区分の説明‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　17

2025 年度事業方針

各種感染症の安全リスクに十分な注意を払いつつ、本会の強みである実地開催される事業を有効活用して、電動化・知能化を含む自動車技術領域の「更なる深化」と「新技術領域との融合による価値増大」を実現するための場を提供し、個人会員、賛助会員に対するサービスの充実を図る。

ＤＸ等の新たな技術領域に関しては、産学官連携により従来の自動車技術分野の枠を超えた連携により必要な場を順次提供し、本会が今後も引き続き会員及び社会ニーズに応えられる学会として発展できる礎を築いていく。

以上を踏まえ、モビリティ社会に向けた新技術の発展および人材育成に貢献し、中期的に会員数の増加に転換し、収益の安定化を図るため、以下の3つを重点項目と定める。

Ⅰ　自技会の既存スキーム（技術会議及び部門委員会等、講座、コンペティション、講演会、展示会等）内に新技術領域に対応する場を順次増設し、自技会内外の人と知が交流する場及び新技術を担う人材を育成する場を提供する。

Ⅱ　最新の会員ニーズに応えられる事業運営を行い、共創の「場」の提供をリソーセスの有効活用を最大限に考慮して実施していく。

Ⅲ　既存の枠組みを超えて本会の認知度を向上し、事業内容を知ってもらい、より多くの仲間を呼び込むために、新規情報配信先の開拓及び情報授受マッチングを考慮した積極的な広報活動を実施する。

これらの事業展開に当たっては、年度内においても本会を取り巻く環境の変化に応じた迅速且つ柔軟な対応を随時実施していく。

1. 3つの重点項目に対応した主な取り組み

① 自技会の既存スキーム（技術会議及び部門委員会等、講座、コンペティション、講演会、展示会等）内に新技術領域に対応する場を順次増設し、自技会内外の人と知が交流する場及び新技術を担う人材を育成する場を提供する。

・新技術領域や、異分野領域と連携した委員会の企画、設置、及び統合の検討を行う。

・新技術領域の講演を企画する。（春季大会オーガナイズドセッション、秋季大会テクニカルレビュー）

・秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）は、新技術分野やスタートアップ企業などからも出展社を集め、規模を拡大する。

・「新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。

・“くるまからモビリティへ”の技術展を開催し、将来のモビリティに深く関係する新規領域の技術情報の提供及び新領域を含めた産官学間の交流・連携を促進する。

・自動車ソフトウェア領域の人材育成を進め、ソフトウェア領域技術マップをベースとして自動車ソフトウェア領域のキャリア、スキルセットを策定し人材のマッチングや育成を行う。
・新たな連載企画として、ビギナーエンジニア（新入社員等）向けに基礎理論と応用技術を扱う技術解説を検討し、若手技術者の学びを支援する。

② 最新の会員ニーズに応えられる事業運営を行い、共創の「場」の提供をリソーセスの有効活用を最大限に考慮して実施していく。
・学術講演会の開催形式をハイブリット開催から、実地開催と後日オンデマンド配信という新しいサービスを付加したものに変更し、多くの方が活発に交流いただける場を提供する。
・DP（デジタルパブリッシング）を活用した新たなコンテンツ・情報サービスの創出を推進し、会員サービスの向上と情報発信力の強化を図る。
・技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR)、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充実を図る。
・春季大会でランチョンミーティングを新設し、「会員利便性向上」と「学会と展示会の相互連携」を促進する。

③ 既存の枠組みを超えて本会の認知度を向上し、事業内容を知ってもらい、より多くの仲間を呼び込むために、新規情報配信先の開拓及び情報授受マッチングを考慮した積極的な広報活動を実施する。
・自技会 ID との連携を通じて利便性と情報発信力を高める。
・会誌の特集やホットトピック等で新技術領域を取り扱うコンテンツを継続して掲載し、新技術を担う人材に向けた価値ある情報を発信する。
・自動車技術会基準キーワードの見直し、改定を行い、本会における新技術分野領域を明確化する。
・会誌購読者向けにログイン不要で会誌を閲覧できる期間限定 URL の発行し、会誌へのアクセス数を増やす。さらに、SNS での発信も活用して会誌へのアクセスを促進する。
・会誌の HTML 化を検討し、ユーザが迅速かつ円滑に情報へアクセスできる仕組みを構築する。
・文献・情報検索システムにおいて、全文検索を含む検索機能の改善を行い、ユーザの利便性を一層向上させる。
・従来の催事別の縦割り広報から、催事を跨いだ横串広報を実施する。
・新たな仲間に自技会発信情報を届けるべく、ターゲティング広告を導入する。
・タッチングポイントの少ない新技術担当部署／者への情報発信強化方法を賛助会社担当者様や企業グループ担当者様と連携して検討する。

2. 予算編成の基本方針

公益法人に求められる財務3要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たす。

会費収入減少と委託費・人件費等の費用の増加のため、前年踏襲の事業計画では収支悪化が不可避。本質的なサービスを見極め、質は落とさずに知恵を使った費用低減活動を継続的に実施していく。

1 総　会

第15回定時総会を2025年5月22日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項　2024年度決算報告の件、名誉会員推薦の件

報告事項　2024年度事業報告の件、2025年度事業計画の件、2025年度予算の件

2 役員会

2.1　理事会を4回開催する。

2.2　会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を3回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第５条１号、公益目的事業１）

技術会議、及び新連携創生センターでは、

・既存の部門委員会・委員会では、最新の技術課題に取り組み、その活動成果を学術講演会、シンポジウム及びフォーラムなどで情報発信する活動を活性化させる。

・新技術領域に対応する委員会や、異分野領域と連携した委員会の企画、設置、及び統廃合の検討を行う。

・新技術領域に関連する学術講演会オーガナイズドセッションやテクニカルレビューを企画し、本会内外の人と知が交流する場を提供する。

・秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）の出展社を、新技術分野やスタートアップ企業などからも多く募り、参加者・出展社のニーズに合った場を提供する。

3.1　技術会議

(1) 技術会議

① 技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

② 自動車技術会基準キーワードの見直し、改定を行い、本会における新技術分野領域を明確化する。

③ 新技術領域に対応する委員会や、異分野領域と連携した委員会の企画、設置、及び統廃合の検討を行う。

④ 秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）の出展社数を拡大し、学術講演会のプログラムの充実を図り、参加者へのサービス向上を目指す。

(2) 部門委員会

50 部門委員会と１特設委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

① 2025年春季大会において、オーガナイズドセッションを開催する。

② 2025年人とくるまのテクノロジー展（横浜、名古屋）において22件のフォーラムを実地会場において開催する。フォーラムテキスト（冊子）を有料販売し、収益をあげることで、安定的運営をめざす。

③ シンポジウム・講習会を各委員会企画により23件開催する。

④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載等を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

① 春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

② 新技術領域に関連する春季大会学術講演会オーガナイズドセッションや秋季大会テクニカルレビューを企画する。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により2024年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

＜主催＞

① EVTeC2025実行委員会（2025年5月19日～21日　パシフィコ横浜）

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

(5) 他学協会との連携

① 材料部門委員会と日本金属学会・日本鉄鋼協会との連携

② 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会との連携

3.2　新連携創生センター

(1) 委員会

下記2委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

① モビリティガバナンス社会実装検討委員会

② モビリティ空間のグローカルな設計・検証におけるDX検討委員会

3.3　研究調査事業

技術会議の2委員会が拠出型にて3テーマを実施する。

（国際標準記述によるモデルベース開発技術部門委員会、タイヤ／路面摩擦特性部門委員会）

3.4　受託事業

技術会議の2委員会により以下を実施する。

SAE World Congress 等海外におけるPM研究動向の最新研究調査

（大気環境技術・評価部門委員会／受託先：日本自動車工業会）

自動車単体騒音のあり方に関する調査（車外騒音部門委員会／受託先：環境省）

PM：Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第５条２号、公益目的事業２・３・自動車技術展は収益事業）

各種催事の開催形式は実地開催を主体とし、状況によりオンラインも併用することによって、幅広くより多くの方（ステークホルダー）に参加いただける機会を提供する。

- 春季及び秋季大会は、開催形式をハイブリット開催（実地＋オンライン配信）から、実地開催と後日オンデマンド配信という新しいサービスを付加したものに変更し、多くの方（ステークホルダー）が活発に交流いただける場を提供する。
- 「人とくるまのテクノロジー展」は、横浜・名古屋に加え、それぞれに併催するオンライン開催で構成する。
- 既存の枠組みを超えて本会の認知度を向上し、事業内容を知ってもらい、より多くの仲間を呼び込むために、“くるまからモビリティへ”の技術展をさらに発展させる。
- 技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充実を図る。

4.1　春季大会

2025 年 5 月 21 日（水）～23 日（金）にパシフィコ横浜（横浜市）にて実地で開催する。講演の後日オンデマンド配信という新しいサービスを付加する。この他、Keynote Address、学生ポスターセッション、若手・中堅技術者交流会、自動車業界ウェルビーイングラボを実施する。

4.2　秋季大会

2025 年 10 月 15 日（水）～17 日（金）に西日本総合展示場・北九州国際会議場・リーガロイヤルホテル小倉（北九州市）にて開催する。開催方式は春季大会と同じとする。学術講演会、Technical Review のほか、九州支部の協力を得て市民公開特別講演を実施する。昨年初めて開催した秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）は、新技術分野やスタートアップ企業などからも出展社を集め、規模を拡大し、参加者・出展社のニーズにあった場を提供する。

4.3　人とくるまのテクノロジー展

人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋展示会とそれぞれでオンライン展示会を併催する。主催者企画は共通テーマ「新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来」を掲げて実施する。

①　人とくるまのテクノロジー展 2025 YOKOHAMA（2025 年 5 月 21 日（水）～23 日（金））

パシフィコ横浜（横浜市）

「新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。

②　人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA（2025 年 7 月 16 日（水）～18 日（金））

Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）

「新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、新技術を搭載した車両の展示、最新車の開発秘話などについて開発チームが語る技術開発講演を実施する。

③ 人とくるまのテクノロジー展 2025 オンライン STAGE 1

(2025 年 5 月 14 日（水）～6 月 4 日（水))

リアル展示会の会期 1 週間前に開催し、横浜展示会への来場者誘引に活用する。STAGE 1 では横浜展示会のコンテンツを中心に配信する。

④ 人とくるまのテクノロジー展 2025 オンライン STAGE 2

(2025 年 7 月 9 日（水）～7 月 30 日（水))

リアル展示会の会期 1 週間前に開催し、名古屋展示会への来場者誘引に活用する。STAGE 2 では名古屋展示会のコンテンツを中心に配信する。

4.4　他領域との連携を促進する催事

“くるまからモビリティへ”の技術展 2025 を 11 月～12 月に開催し、将来のモビリティに深く関係する新規領域の技術情報の提供、及び新領域を含めた産官学間の交流・連携を促進する場とする。企画に際して、他領域学協会･団体との連携を図る。

4.5　フォーラム

技術会議及び新連携創生センター傘下の委員会を中心とした企画により、2025 年人とくるまのテクノロジーYOKOHAMA において 16 件、NAGOYA において 6 件のフォーラムを実地開催する。

4.6　シンポジウム・講習会

技術会議傘下の各委員会企画により 23 件開催する。

4.7　国際会議

専門技術分野の国際会議等を以下のとおり開催する。

① EVTeC2025（2025 年 5 月 19 日～21 日　パシフィコ横浜）

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

5 学術誌及び学術図書の刊行（定款第 5 条 3 号、公益目的事業 1・2・3）

モビリティ技術の発展およびそれを支える人材の育成に貢献し、収益の安定化、会員数の維持・増加を継続的に強化するため、DP（デジタルパブリッシング）を活用した新たなコンテンツ・情報サービスの創出を推進し、会員サービスの向上と情報発信力の強化を図る。

5.1　資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

(1) 会誌「自動車技術」

・会誌読者アンケートを継続し、読者の意見を参考に動画やリンクなど電子版の特性を活かした機能、ならびに記事内容の改善を検討する。

・「レジェンド対談」をはじめ、若手技術者が興味をもてる企画を継続的に検討する。

・会誌購読者向けにログイン不要で会誌を閲覧できる期間限定 URL（会誌発行日より 2 週間）の発行、およびメールマガジンでの配信を 2025 年度も継続し、会誌へのアクセスを促進する。また、SNS での発信も活用して会誌へのアクセスを促進する。

・新企画「みんなのモーターサイクル工学講座　エンジン編」の連載を 2026 年 7 月号まで継続する。

・特集やホットトピック等で新技術領域を取り扱うコンテンツを継続して掲載し、新技術を担う人材に向けた価値ある情報を発信する。

・広告会社と密接に連携し、広告主が満足できる媒体作りに向けた対策を講じる。

・会誌の HTML 化を検討し、ユーザが迅速かつ円滑に情報へアクセスできる仕組みを構築する。さらに、自技会 ID との連携を通じて利便性と情報発信力を高め、編集・配信コストの削減を目指す。

・海外向けの年鑑号英語版については、自動翻訳ツールの活用を検討し、低コストかつ効率的に情報を発信できる体制を整備する。

(2)「文献情報収集」

・文献・情報検索システムにて、本会発行文献・SAE Paper・技報等の書誌事項・抄録情報の掲載を引き続き実施する。

・文献・情報検索システムにおいて、全文検索を含む検索機能の改善を推進し、これによりユーザの利便性を一層向上させる。

・文献情報検索システムのコンテンツ拡充・普及を推進し、自技会 ID の機能強化を通じて、利用者の関心に応じたコンテンツ提供を目指す。

(3)「JSAE エンジンレビュー」を電子版として継続発行する。将来的なコンテンツの利活用を見据え、HTML フォーマットとページ構成の改善を検討する。また、新たな連載企画として、ビギナーエンジニア（新入社員等）向けに基礎理論と応用技術を扱う技術解説を検討し、若手技術者の学びを支援する。

(4)「日本の自動車規格」の日本語版および英語版を Web システムにて継続提供する。

(5) 第 76 回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー記事を会誌「自動車技術」に掲載する。

(6)「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テスティングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」の冊子版および電子版を発行する。

(7)「高翔」（関東支部企画・編集）、「宙舞」（中部支部企画・編集）、「関西支部ニュース」（関西支部企画・編集）を電子版として発行する。

(8) 自動車工学図書については電子版の発行を検討し、ユーザの利便性向上を図るとともに、配信および保管コストの削減を目指す。

(9) 自動車用語多言語辞典の掲載内容拡大、オンライン編集機能の追加を継続検討する。

(10) 自動車技術ハンドブックの改訂に向けて、新分冊は新技術領域を含めることを編集方針として、2025 年 9 月以降執筆を開始する。従前の各分冊は編集方針を決定し執筆に向けて準備を行う。また電子化を進め、検索性、閲覧性ならびに更新性を高めながら、費用を抑えた編集体制を目指す。ハンドブックの DP 対応として、HTML 形式による公開やオンライン編集機能の実装を検討する。これに伴い全文検索への対応が可能となり、必要な情報への迅速かつ効率的なアクセスを実現、ユーザの利便性向上につなげる。

5.2　研究発表に関する学術誌の発行

本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、英文ジャーナルにおいて IF（インパクトファクター）の取得を目指す。

(1)「自動車技術会論文集」

・J-STAGE にて年 6 回発行する。

・オンライン査読システムにより、投稿から掲載までの期間を短縮しつつ高いクオリティの論文を発信する。

(2)「International Journal of Automotive Engineering (IJAE)：英文ジャーナル」

・J-STAGE にて年 4 回発行する。

・学術的価値向上のため、2024 年度に ESCI (Emerging Sources Citation Index) への申請を実施。掲載が認められた場合には、これを活用して IJAE への投稿件数増加を目指し、国際会議への広報やさらなる普及促進策を進める。

・本会主催の国際会議に対して IJAE 誌への投稿を促す PR 活動を継続的に行う。

(3) 春季･秋季大会学術講演会講演予稿集、およびフォーラム資料を電子版として発行する。

(4) フォーラム資料（冊子）を発行し、会場における参加者の利便性向上を図りながら、冊子化による費用は会場販売の強化などで対応する。

5.3　人材育成に関する学術図書の発行

(1) シンポジウム及び講習会資料を電子版として発行する。

(2) 会誌「自動車技術」において人材育成の記事を連載する。

(3) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2 回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.26」を発行する。

5.4　広報関連他の発行

(1) JSAE メールマガジン（インターネット配信）を週 1 回発行する。中部支部メールマガジン（インターネット配信）を月 1 回発行する。

(2) 支部だより（北海道支部 1 回)、行事案内（関西支部 11 回）（九州支部 25 回）を発行する。

6 人材の育成（定款第 5 条 4 号、公益目的事業 3)

次世代エンジニア育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア 2025」、中高生を対象とした「次世代モビリティデザイナ人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内)」、大学生向けに「学生フォーミュラ日本大会 2025」等ものづくり教育の場を提供する。その他、大学生/大学院生の発表機会として「学生ポスターセッション」を継続実施する。また、学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。新技術分野の人材発掘、育成のため「自動運転 AI チャレンジ 2025」を開催する。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。特に、自動車ソフトウェア領域の人材育成を進めるべく、製作したソフトウェア領域技術マップをベースとして自動車ソフトウェア領域のキャリア、スキルセットを策定、人材のマッチングや育成の効率化を推進する。経済産業省モビリティ DX プラットフォーム構築・運用事業の受託を通じた知見を活用し、前述の各対象にむけた人材育成事業の拡張を図る。

6.1　自動車工学基礎講座

ライブやオンデマンドなどの配信形態による開催を行う。また、地域や企業団体からの要望に応じた開催も継続する。

6.2　サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し開催する。また、実習型の講座を引き続き開催するとともに、サイバーセキュリティ人材の発掘、育成のためのハッカソンイベントを継続開催する。

6.3　システムズエンジニアリング講座

システム思考、論理思考、自動車のコンテキスト全体に関する理解など自動車エンジニアに重要となる思考定着を企図し、システムズエンジニアリング講座を継続開催する。また、専門領域を超えて協働することを促進するために新たにシステムズエンジニアリングワークショップを開催する。

6.4　みんなのモーターサイクル工学講座

モーターサイクル工学基礎講座に加え、学生や一般ユーザーならびに新入社員を対象とした技術教育を、会誌連載、書籍製作、講座講習会の 3 つのアウトプットにて企画推進する。

6.5　エシカル・エンジニア開発講座

先進技術開発におけるモラル、倫理問題に対する人材育成ニーズより、エシカル・エンジニア開発講座を開催する。

6.6　支部の講演会・見学会等

(1) 北海道支部：地方講演会 2 回、特別講演会 1 回、見学会 1 回、e モータースポーツ北海道大会 2025　3 回、市民講座 6 回、札幌モビリティーショー2026 内でのイベント、第 31 回雪氷路セーフティドライビングコンテストを開催する。

(2) 東北支部　：講演会 2 回、見学会 3 回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座 7 回、セミナー4 回、親子マイコンカーラリー体験科学教室 3 回、小学生向け学生フォーミュラーシュミレーター体験科学教室 3 回、親子 3D プリンター体験科学教室 3 回、e モータースポーツ北海道/東北支部合同大会 2025　2 回を開催する。

(3) 関東支部　：講演・講習会 11 回、見学会 11 回、支部社会活動として公開講座を開催する。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。また、中高生向けの活動としてエコ 1 チャレンジカップを企画・開催する。

(4) 中部支部　：講演会 1 回、研究発表会 1 回、見学会 13 回、技術講習会 5 回、技術交流会 2 回、体験型講習会 1 回、技術者懇談会 3 回を開催する。
人とくるまのテクノロジー展 2025 名古屋に展示イベント 1 回を開催する。

(5) 関西支部　：見学会 6 回、講演会 1 回、学会交流セミナー1 回、技術者懇談会 1 回、技術者交流会 1 回を開催する。

(6) 九州支部　：関西支部との合同例会 1 回、講演会 3 回、見学会 1 回、市民講座 4 回、技術者情報交換会 1 回、技術交流会 1 回を開催する。

6.7　技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.8　継続能力開発（CPD）プログラム

技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。また、自動車ソフトウェア領域の人材育成を進めるべく、ソフトウェア領域技術マップを整備し、スキルマップやキャリア基準策定を推進する。

6.9　学生フォーミュラ日本大会 2025－ものづくり・デザインコンペティション－

学生フォーミュラ日本大会は、大会を通じてものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、産業の発展･振興に資する人材を育成する。2025 年大会は ICV と EV を完全にクラス分けし、また、すべての審査が現地実施となり、全参加者が楽しめる安全かつ効率的な開催を推進する。

実地開催：2025 年 9 月 8 日（月）～13 日（土）Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）

6.10　自動運転 AI チャレンジ 2025

自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする「自動運転 AI チャレンジ」の発展を推進する。ターゲットとする人材（学生、若手社会人等）への訴求力向上や要求スキルの高度化を目的に、シティサーキット東京ベイ(お台場)におけるＥＶゴーカートを用いた競技をさらに発展させる。併せて、各社の採用・選考における活用も併せて推進する。

6.11　キッズエンジニア 2025

キッズエンジニア 2025 は、自動車を中心とした様々な分野の科学技術やものづくりに興味を持ってもらう小学生を対象とした体験型学習イベントとして、以下の通り実地開催する。

今回の中部開催は、ポートメッセなごやから Aichi Sky Expo へ会場移転をする。

実地開催：2025 年 8 月 1 日（金）～2 日（土）Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）

6.12　支部の小学生プログラム

(1) 北海道支部：「キッズエンジニア」を 4 回、「まちなかキャンパス 2025」、関東支部と共同開催する「くるま未来体験教室」を各 1 回開催する。

(2) 東北支部　：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北 2025 仙台（第 10 回）」を 1 回、「親子マイコンカーラリー体験科学教室」3 回、「小学生向け学生フォーミュラーシュミレーター体験科学教室」3 回、「親子 3D プリンター体験科学教室」3 回（会場は全てスリーエム仙台市科学館）を開催する。

(3) 関東支部　：「小学生くるま未来体験教室」を 5 回開催する（うち 1 回は他支部との共同開催）、「キッズエンジニア 2025」、「キッズエンジニア in 東北（第 8 回）」に出展する。

(4) 中部支部　：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を 9 回開催する。（内 1 回は「キッズエンジニア 2025」に出展）

(5) 関西支部　：「キッズエンジニア」を 1 回開催する。

(6) 九州支部　：「キッズエンジニア in 九州」を開催する。

6.13　学生活動企画委員会

全国6支部による学自研活動をはじめとする学生活動の連携の他、学生活動全体の推進を行う。大学生の発表機会として「第9回学生ポスターセッション」を春季大会にて、「第10回学生ポスターセッション」を秋季大会にて実施する。

6.14　学生安全技術デザインコンペティション（SSTDC）

2026年1～2月に日本地域大会決勝を開催する。2026年5～6月に28th ESV内で開催される国際大会へ日本地域大会上位チームを派遣する。

6.15　中高生・大学生を対象とした「モビリティデザイナ人材育成プログラム」

中高生を対象として、創造的なモビリティデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさす機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び「第14回モビリティデザインコンテスト」を実施する。また、大学生の方々に世界に誇る日本の二輪デザインを知って体験してもらえる機会として、「第13回二輪デザイン公開講座」を実施する。（企画：技術会議デザイン部門委員会）

6.16　学生自動車研究会（以下学自研）

(1) 北海道支部

eモータースポーツ北海道大会2025 3回、学生フォーミュラEV車検相談会2回、学生フォーミュラ合同試走会2回、学生フォーミュラ日本大会2025に参加、学生フォーミュラ日本大会2025報告会1回、企業見学会5回、第31回雪氷路セーフティドライビングコンテストを開催。

(2) 東北支部

参与会1回、運営委員会4回、支部学自研大会1回、運営委員会4回、学自研参与会1回、特別講演会1回、見学会1回、第44回タイヤ研修会、第35回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第36回手作り自動車省燃費競技大会、第40回自動車整備コンテストを各1回開催、学生フォーミュラ支部試走会4回、模擬車検会1回、ESF相談会2回、EV相談会2回開催。第23回全日本 学生フォーミュラ日本大会2025へ3チーム参加。

(3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を5回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第23回全日本 学生フォーミュラ日本大会2025に参加。並行してフォーミュラ試走会を5回開催。

(4) 中部支部

参与会2回、学生委員会5回、学術講演会1回、安全ミーティング5回、安全講習会3回、ものづくりセミナー1回、テクニカルセミナー1回、中部支部試走会4回、交流会2回、ICV・EV比較走行会1回、レーステスト見学会1回開催、また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。学生フォーミュラ日本大会2025に参加。

(5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、工場見学会2回、試乗技術説明会、卒業研究発表講演会1回開催、支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を4回開催し、講習会・勉強会計9回、試走会5回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会 1 回、研究発表会 1 回、フォーミュラ大会報告会 1 回、講演会 1 回、見学会 2 回、安全運転講習会 2 回、学生フォーミュラ日本大会 2025 へ 4 校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会 5 回、溶接講習会 1 回、車検講習会 1 回、リーダーミーティング 12 回、SES 勉強会 1 回を開催。学自研機関紙発行 1 回。

7 規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号、公益目的事業 1）

規格会議では、DX 等の新たな領域、モビリティ技術等、自動車を取り巻く社会変革の動きを見据えた標準化活動を推進する。具体的には、自動車業界の標準化重点テーマ（自動運転、事故死ゼロ、電動車）を中心に、主要各国と協力して規格開発をすすめ、技術進化と合わせて国際標準化に積極的に取り組んでいく。

また、関連団体と連携して自動車の国際基準調和活動（WP29）に貢献する。

7.1 自動車標準化委員会及び JIS／JASO 規格審議委員会（自動車分野）

自動車標準化委員会では、「自動車標準化 5 カ年計画 2025」に沿って、規格開発を進める。

JIS／JASO 規格審議委員会では、JIS／JASO の制定及び改正を推進する。また JASO を活用した日本発の国際標準化に繋げて行く。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

①TC22 及び関連 TC 国際標準化活動にエキスパートを派遣し、日本の意見反映を通じ国際競争力確保に努める。

②本会が国際議長・幹事を担う TC22/SC32（電子・電装領域）、TC22/SC34（パワートレイン領域）、及び国際議長を担う TC22/SC38（モーターサイクル・モペット）において日本の貢献を果たす。

③人材育成の観点で、規格の重要性・標準化プロセスを学ぶ ISO 研修会を開催する。

④標準化活動レポート（会誌掲載）等による広報活動を行う。

⑤「自動車標準化 5 カ年計画 2026」を策定する。

⑥規格ロードマップの見直しに着手する。

(2) 国内標準化活動（JIS/JASO）

① JASO 制定 4 件、改正 11 件、テクニカルペーパ制定 2 件、改正 0 件、JIS 制定 1 件、改正 7 件を実施する。

② JIS／JASO 原案を効率的に作成するための規格原案作成講習会を開催する。

7.2 ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ITS 標準化委員会では、自動運転やコネクティッド・カーの機能を取り込んだ次世代交通システムの発展と普及に資する自動車・インフラ・ユーザーの各分野及び各分野間のインタフェースに関する規格開発を推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO／TC204）

① TC204 国際標準化活動にエキスパートを派遣し、日本の技術を反映する。

② ITS 標準化委員会・技術委員会は、本会が事務局として活動する。国内対応分科会は、本会（WG1、WG14、WG20）のほか、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS 協会（WG9、10）、道路新産

業開発機構（WG5、7、18、19)、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が事務局を分担して標準化を推進する。

③ 本会が国際議長を担うTC204/WG14ではSAE（米国自動車技術会）やETSI（欧州電気通信規格協会）等と連携しつつ、日本提案の作業項目の策定を推進する。さらに効率的な国際会議の運営推進のため、WG14の組織体制改革を検討する。

④ パンフレット「ITSの標準化 2025」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2025」を作成、配布するとともに標準化活動レポート（会誌掲載）等による広報活動を行う。

⑤「ITS 分野の国際標準化 現状分析 2025」をさらに深耕し、今後日本が進めるべき標準化の方向性について取りまとめる。

⑥ITS国際標準化フォーラムを開催する。

⑦本会運営企画会議参加のMDX 推進委員会が推進しているモビリティDX プラットフォーム事業において実施が予定されている標準化基礎講習会に対し、企画・実施面で協力する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第5条6号、公益目的事業1・2・3）

従来の活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

(1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。

(2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。

(3) 経済産業省の日本産業標準調査会（JISC）の交通・物流技術専門委員会他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に活動する。

(4) 経済産業省と連携し、自動運転AIチャレンジ2025を開催する。

(5) 経済産業省の第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力する。

(6) 各国国土交通省が2年に一度主催する ESV 国際会議を開催する。「学生安全技術デザインコンペティション」の国際大会（2026年、カナダ（予定））に派遣する日本代表チームを選抜する。(今回、国際大会が1年延期となった)

(7) NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査」のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し、活動を引き続き推進する。

(8) 日本自動車工業会、日本自動車研究所、JASPAR、情報通信技術委員会(TTC)、産業環境管理協会（JEMAI）と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。

(9) 自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）自動車イノベーション基準化研究所において自動運転分野の国際競争力を確保するため、国連法規活動と連携した国際標準化活動を推進する。

(10) 日本金属学会、日本鉄鋼協会と材料部門委員会の合同企画としてフォーラムを開催する。

(11) 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。

(12) 自動車サイバーセキュリティ講座を、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、日本自動

車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、車載組込みシステムフォーラム、情報通信研究機構と連携して引き続き開催する。

(13) システムズエンジニアリング育成プログラムを、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科と共催し開催する。

(14) “くるまからモビリティへ”の技術展 2025 ONLINE を開催（11月～12月）し、将来のモビリティに深く関係する新規領域の技術情報の提供、及び新領域を含めた産官学間の交流・連携を促進する場とする。企画に際して、他領域学協会との連携を図る。

8.2　国外関連機関及び団体との連携

(1) 学生フォーミュラを通じて各国との交流促進を図る。

(2) 中国汽車工程学会（SAE-China）の中国汽車工程学会年会、韓国自動車工学会（KSAE）の韓国自動車工学会年会などにおいて協力する。

(3) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。

(4) APAC Members Meeting などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。

(5) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。

ESV：International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles
FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies
APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第５条７号、公益目的事業２・3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1　技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

(1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。

自動車技術会賞等各賞の社会への更なる周知を図る。賞の価値向上に資する施策を推進し、授賞を技術者・研究者のモチベーションの醸成、向上に繋げる。

(2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。

(3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。

(4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。

(5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に称号を授与する。

(6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。

(7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。

(8) 編集・出版功績感謝状：編集委員会委員としての活動の功績が多大な個人、編集会議が係わる著作物の出版において功績が多大な個人・団体に感謝状を贈呈する。

(9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈

する。

(10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

(11) 学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状：学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献を挙げた個人の功績を称え、感謝状を贈呈する。

(12) キッズエンジニア運営功績感謝状：キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献を挙げた個人の功績を称え、感謝状を贈呈する。

9.2　学生対象の業績表彰

(1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。

(2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。

(3) 学生ポスターセッション優秀賞：春季および秋季大会の学生ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った学生個人を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

（定款第５条８号）

10.1　最新の会員ニーズに応えられる事業運営を目指し、2024年にサービスを開始した自技会 ID（シングルサインオン）の機能拡張を進める。コンテンツについては他事業を含めた横断的な取り組みを実施し、会員にとって魅力あるコンテンツの拡充が可能となるように土台を固めていく。またアーキテクチャが老朽化しているシステムの改訂を進める。SSO 連携している「コーポレートサイト」を中心にコンテンツレコメンド機能を実装し、利用者の関心に沿ったコンテンツ提供を目指す。

10.2　法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。

10.3　公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。

10.4　支部総会・役員会

(1) 北海道支部　：支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。

(2) 東北支部　：支部通常総会1回、支部理事会3回を開催する。

(3) 関東支部　：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。

(4) 中部支部　：支部通常総会1回、春季合同役員会1回、夏季合同役員会1回、秋季合同役員会1回、新年合同役員会1回、担当幹事会4回、6社会、各事業別企画委員会を開催する。

(5) 関西支部　：通常総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、企画と編集委員合同会議1回、開催する。会員増強のための会員・魅力拡大会議3回を開催する。

(6) 九州支部　：支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業１　資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
・調査及び研究（定款 5-1）
・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業２　研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAE 誌、予稿集等）

公益目的事業３　人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

・人材の育成（定款 5-4）
・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業　展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業　会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業